

「九条の会さかど」ニュース 2025年11月6日 第149号

<http://www.9jo.jp/sakado> sakado@9jo.jp 連絡先 049-282-4968(小林)

学びの秋に戦跡めぐり

西坂戸 大山 茂

九条の会さかど秋の恒例「坂戸の戦跡めぐり」。今年は11月22日(土曜日)13時30分に中央地域交流センター(旧中央公民館)学級室Cに集合して行ないます。

「陸軍」と記された境界杭、給水塔跡、弾薬庫、防火水槽、飛行機誘導路のペトン(コンクリート)など陸軍坂戸飛行場の戦跡をめぐりますが、戦跡めぐりを行なうにあたっては、国内外の情勢の変化や今後の取り組みが必要と思われる事柄など、戦跡めぐりと併せて学んでおきたいことにも触れたいと思います。

高市首相 大軍拡を対米公約

自民・維新の連立内閣として動き出した高市新首相は、トランプ米大統領との対面での首脳会談をおこない「日米同盟の新たな黄金時代を共に作り上げたい」などと提起して、大軍拡を対米公約しました。

トランプ米大統領 核実験指示

また、トランプ大統領は核実験を直ちに開始するよう戦争省(旧国防総省)に指示したことを明らかにしましたが、2017年に国連加盟国の6割を超える122カ国の賛成で採択され、2021年に発効した核兵器禁止条約は、核兵器の開発、生産、実験などを包括的に禁止しています。署名や批准をした国は99カ国、今や国際的には多数派です。核実験指示は、世界の緊張を高める危険な動きでしかありません。

高市首相はタカ派路線で知られており、自民党より右寄りである維新とともに、議員定数の削減を皮切りに、憲法改悪に突き進もうとしています。そうした中で9条を守り抜く運動がいよいよ重大になっています。

来日したトランプ大統領と「日米同盟の新たな黄金時代」とはしゃぎ、軍事費を大幅に増やすことを約束したのは許せないことです。自衛隊の敵基地攻撃能力を強めるなど、危険な動きを推し進めようとしています。軍事費の増大や基地の強化を進めるとしている高

市内閣は、戦後最悪の内閣です。高市内閣の危険性や問題点を指摘し、憲法9条を守り抜く取り組みを進めていくことが喫緊の課題といえます。そうした中で行なおうとしているのが、今年の「戦跡めぐり」です。

戦跡めぐりで学びたいこと

「戦跡めぐり」では今年も出発前に、どうして坂戸に陸軍飛行場が作られたかの歴史的背景と、その飛行場が戦後どうなったのかの説明があります。

とりわけ戦後の経緯です。終戦直後、GHQは日本の軍事力を骨抜きにする施策を進みました。陸軍士官学校の本校である入間市豊岡はアメリカ空軍のジョンソン基地になりましたが、坂戸飛行場は格納庫や弾薬庫などを残したまま放置されました。

米軍基地を団結で阻止

ところが朝鮮戦争の開始とともに米軍通信基地にしようという動きがあり、開拓農民の団結で阻止しただけでなく、桜と緑の公園を作り、基地化を永久に許さないという構えを示しました。その貴重な事実が1953年(昭和28年)と1955年(昭和30年)の埼玉新聞に掲載されています。

1953年9月11日付の埼玉新聞に掲載されている「注目の開拓民大会」と題した記事は、旧坂戸飛行場開拓地の無線基地としての接収と着工を強行しようとしている動きに対して、開拓民大会を開いて接収反対の対策を協議するという内容の大変注目されるものであり、続く1955年4月5日付の埼玉新聞の記事には飛行場跡地を桜と緑の新名所にしようという内容が載っていました。

放置されていた陸軍坂戸飛行場の跡地を米軍基地にしようという動きを開拓農民の運動で阻止し、坂戸市を桜と緑の名所にしていた「輝かしい実績」として注目すべきではないでしょうか。

高市政権は、軍事費を大幅に増やし、敵基地攻撃能力を持たせ、長射程ミサイル基地を全国62カ所に設け

坂戸の戦跡めぐり

日 時 11月22日(土曜日)13時30分～16時
集 合 坂戸市中央地域交流センター学級室C(解散も)
内 容 陸軍の境界杭、給水塔跡、弾薬庫、被爆アオギリ、
防火水槽、飛行機の誘導路、平和都市宣言などの
市役所周辺の旧陸軍坂戸飛行場の戦跡を歩きます
後 援 坂戸市
備 考 歩いての移動に不安な人は、ご相談ください。

ようと予算化を進めています。過去には立川基地の拡張や板付空港の巨大基地化などに対する反対闘争を日本国民が体験してきました。平和がおびやかされている現在の国内外情勢は、敵基地攻撃能力の強化や軍事基地の拡張を許さない、国民的共同の運動が求められています。

歴史に学び語り継ぐ

「坂戸には住民パワーで米軍基地を阻止した」という歴史があり、それを報じた埼玉新聞の当時の記事を掘り起こして、後世に伝えていきたいと思います。こうした貴重な経験を持っている坂戸飛行場の戦跡をめぐる「坂戸の戦跡めぐり」への参加を幅広く呼び掛け、米軍基地を阻止した歴史もしっかりと学びながら戦跡とともに語り継いでいくことを、これから取り組みの力点にしていきたいと思っています。

20周年の感想から(2)

◆ 「平和外交こそ、最強の安全保障」。西みゆかさんの講演から聞こえきました。私も米軍横田基地近くのあきる野市に住み、オスプレイ問題に取り組んできました。

あきる野市中央公民館での取り組みである「市民企画講座」でも、横田基地を撤去する西多摩の会の高橋美枝子さんや猿田佐世さん、布施祐仁さん、半田滋さん、ピースボートの渡辺里香さんを講師に迎えて、市民と平和について議論しました。

西みゆかさんの講演の中にもありました、この代理戦争、特に中国に対しての戦争は日本が代理戦争をさせられる。特に横田基地のCV-22オスプレイは対中国戦争のためにある武器です。共同作戦司令部や自衛隊などの基地強化が本当に進められ、リアルな戦争情勢になっています。

今回の講演は、消費税(付加価値税)の話から始まりましたが、経済の衰退(帝国主義の延命)など、経済問題もかなりしっかりと見なくてはならないと思います。「敵の攻撃をしっかりと見る」は、労働組合も一緒だと思います。

また、戦争問題や経済問題を市民や労働者が日常的に議論する場として、9条の会や労働組合がとても役に立つと思います。あきる野市でも「オスプレイいやだ! あきる野日の出上映会」と言う市民運動、日本共産党あきる野市議団の3人と、市に対してオスプレイ飛行再開反対を求める行動など、闘ってきました。

また、横田基地第2ゲート前スタンディングで、社民党昭島市議の青山秀雄さんも共に闘っています。(武藏村山市 井上 誠)

◆ 西みゆか弁護士、何とパワフル! 面白かった! 面白かったが、回転が速く、私みたいな無知には、飲み込めない部分が多かった。

コストパッショ・インフレ
ディマンドブル・インフレ

専門用語は理解できない!

まさに、政治家弁護士!

【9条バトンリレー(20)】

叔父の死を無駄にしない

鶴舞 立花幸子

私は戦後の生まれだ。父が太平洋戦争から無事に帰ってきたおかげで、姉も私もこの世に生を受けることができた。

父の2歳下の弟は1945年6月に沖縄で亡くなった。戸籍には沖縄戦終結とされる6月23日の6日後の日付で戦死と書いてあるが、その記載日は1年数ヶ月も後になっている。

その叔父が戦地から自分の両親や妹に宛てて出した軍事郵便4通が、父が亡くなった時に遺品の中から見つかった。「…元気に奉公致して居ります。我々軍人は何時如何なる所に於いて死すともわかりません。御父母様不断から心の準備をしておいて下さい…」これは沖縄県那覇郵便局から出された葉書で、亡くなる4ヶ月ほど前の消印が検閲済の印と共に押してある。

父は、22歳で戦死した弟の話を私たち姉妹にすることはなかった。旅行が大好きで、晩年は自ら計画を立て『きょうだい会』と称して妹弟たちと日本全国あちらこちらに出かけて行った。ある年、高校生の孫が修学旅行で沖縄に行くと知った父が、「ぜひ自分の代わりに平和の礎を見てきてほしい」と頼み、そこで初めて私たちは、叔父が沖縄戦で亡くなり平和の礎にその名が刻まれていることを知ったのだった。きょうだい会の旅先に沖縄を選ぼうとしなかった父の思いが、変色した軍事郵便を最期まで大事に持っていたことと併せて胸に迫ってくる。

子孫を残したくても残せず、生きたくても生きられなかった私の叔父は、どんな思いで亡くなったのだろう。高市内閣が発足し、早速、安保3文書の改定や防衛費を増額する話を出してきた。国を守るとは一体何を守ることを言っているのだろうか。お国のためにと国民の命を切り捨てた80年前の出来事をどう考えているのだろう。9条はその反省の上に【戦争の放棄、戦力および交戦権の否認】を憲法の条文でうたい、国同士の争いで命を落とす人を二度と出さないと決めたのではなかったか。

アジア人2000万人、日本国民300万人の犠牲者を出したあの戦争で、為政者たちはどれほどの責任を取ったというのか。戦争が引き起こす非人間性と残虐行為を誰もが想起し、9条の理念があらゆる国々の憲法にうたわれて実行できる世界に、今すぐなってほしいと心から願っている。

(次回のバトンは鶴舞の高橋宣子さんに)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

11月25日(火)、12月22日(月)、1月22日(月)14時~16時
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センターロビー。